

# リボンの会・冬の交流会 報告書



[リボンの会のホームページ・トップ](#) > [リボンの会とは](#) > [活動報告](#)

開催日時: 2015年 **11月28日**(土)

開催場所: 浜の町病院 会議室 ②・③

〒810-8539 福岡市 中央区 長浜3丁目3-1

## プログラム

- 🎀 **体験発表** 骨髄異形成症候群治療の患者さん（福岡在住・60代男性・Kさん）
- 🎀 **質疑応答** 参加者からの質問に衛藤先生（浜の町病院血液内科）に答えていただく
- 🎀 **交流会、個別相談** 参加者全員が話せるように少人数でグループに分かれて交流会



11月28日(土)、急に寒くなった福岡でしたが、約40名の方にお越しいただきました。

21年前に治療した患者さんとの懐かしい再会もあれば、藁をもつかむ思いで初めて参加された方もいらっしゃいました。

### 【体験発表】

骨髄異形成症候群（以下MDS）の患者であるKさんから治療体験をお話いただきました。Kさんは2007年に肺がんのステージⅢと宣告され、放射線治療、化学治療を経て、左肺全摘手術を受けたそうです。

肺がんは克服されたのですが、8年後風邪で受診したところ、思いがけず肺がん治療からくる二次性のMDSとの診断。衛藤先生曰く「二次性のMDSは非常に治療が難しい。」そうです。

# 「リボンの会 冬の交流会」報告レポート

Kさんの場合、合併症を起こす可能性が高いこと、一人暮らしで家族等の身近なサポーターがないこと、年齢が高いことなど、高いハードルがありました。余命を告げられた時、Kさんは、「厳しいのであれば、治療はしても、しなくてもいい」と、つい心の声が口から出たそうです。その時の先生は、「貴方が生きていたいという気持ちがないなら、やめましょう!」と、厳しい表情でおっしゃったそうで、その言葉に、病気と向き合う気持ちになり、主治医の先生と相談して、骨髄バンク経由の移植に踏み切られたそうです。

今年の12月で丸2年を迎えるそうです。

「前向きに胸を張って歩く。生きられるところまで生きよう!」と気持ちを強く持たれて治療されたというKさんの言葉は、みなさんに勇気を与えたと思います。

衛藤先生は「血液の病気は完治とは言えないが、今の状況をできるだけ長く維持する、今を生きてくということが何より大事です。」とのアドバイスもありました。



<中央＝リボンの会代表 宮地里江>

## 【質疑応答】

質疑応答では、仕事と治療の両立や、服薬量が減らず経済的な悩みや、移植後、社会復帰と体調不良をどう両立して行けばいいか等の悩みについて、衛藤先生や参加者からそれぞれアドバイスがありました。

## 【グループ別交流会】

各グループは、

- ・家族

- ・骨髄異形成症候群
- ・慢性骨髄性白血病
- ・急性白血病
- ・悪性リンパ腫
- ・多発性骨髄腫

のグループに分かれての交流会を行いました。

# 「リボンの会 冬の交流会」報告レポート

各グループでは、それぞれが治療のこと、仕事のこと、家庭のことなど日頃抱えている思いを吐き出し、お互いに励ましたり、励まされたりと、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

このような会を継続して続けて下さいとのアンケートもありました。

会終了後も名残惜しそうにお話されている姿に、改めて、続けていかなければと思いました。



次回の交流会は、2月27日(土)13時30分から、浜の町病院にて開催予定です。体験発表には、末梢性T細胞リンパ腫経験の患者さんにご報告いただきます。また、浜の町病院血液内科部長・衛藤先生より病気についてのお話をさせていただきます。皆さま是非ご参加ください。



## リボンの会 事務局本部

公式サイトURL: <http://ribonnokai.info/>

E-mail: <http://ribonnokai.info/mail.html>